

記入日 2015年1月7日

1. 概要

実践団体名	竜南いのち守り隊		
連絡先	0564-54-4400 (岡崎市立竜南中学校)		
プランタイトル	環境といのちを守る街づくり2014		
プランの対象者※1	4・8・9・10	対象とする 災害種別※2	1

※1 別紙「記入上の留意点」の1. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※2 別紙「記入上の留意点」の2. 項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント!】

- ・地域を大切に、72時間生き延びるために私たち「中学生」ができることを考える。
- ・すべての人に優しい防災を考える。
- ・教師の特性を活用して、生徒の思いとコラボしながら防災学習を進める。
- ・考えたことを力を合わせて実行に移す。
- ・学習のまとめを地域に広める。

生徒の、生徒による、持続可能な地域のための防災学習



【プランの概要】

- ①「つかむ」段階 防災講話 防災オリエンテーション NPOとの協働
→岡崎市役所やESD-J、地域交流施設等との協働による学びで、防災意識高揚
- ②「さぐる」段階 修学旅行とコラボした防災学習 防災マップ作成 非常持出袋検討
→高揚した意識を一斉学習による探究で「個別の課題」へと高める
- ③「深める」段階 東北訪問交流 地域防災訓練への運営側参加 ESD子ども会議参加
教師との協働学習
→個別の課題を解決するための多様な防災学習を実現し、学びを深める。
- ④「ひろめる」段階 防災フェスタの開催 → 共有化による地域への貢献



【期待される効果・ここがおすすめ!】

- ・個別化(孤別化)から、つながりへの転換への一役を生徒が買って出る。
- ・無理せず、無駄なく、最大限の学びを得ることをめざす。
- ・多様な学びに対応するため、教師の特性を生かす。
- ・学校という枠で、地域や他団体との協働を実現する。
- ・持続可能な地域社会の実現をめざす生徒を一人でも多く増やす。



2. プランの年間活動記録 (2014 年)

	プランの 立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	学年検討会②③	防災講話依頼	①避難訓練
5 月	地域検討会④ 学年検討会⑤ 東北との調整⑧	N P O 支援依頼⑥ 訪問以来⑤	②防災講話 ③防災オリエンテーション ④地域交流施設出展
6 月	学年検討会⑤ 東北との調整⑧	N P O 支援依頼⑥	⑤防災施設見学
7 月	学年検討会⑥ 地域検討会⑦ 東北との調整⑧	東北訪問準備⑧	⑥考えよう災害発生!
8 月	東北との調整⑧ 学年検討会⑨	子ども会議活動⑮ 東北訪問報告準備⑨	⑦地域ボランティア参加 ⑧東北復興支援訪問
9 月	学年検討会⑩⑪	子ども会議活動⑮ D I G 準備⑪	⑨東北訪問報告 ⑩避難訓練・総合防災訓練参加 ⑪防災マップ作り D I G
10 月	学年検討会⑫	D I G 分析準備⑫ 子ども会議活動⑮	⑫D I G 分析会
11 月	連絡調整会議⑬ 学年検討会⑭⑮⑯	防災会議準備調査⑬ 文化祭準備⑭ 子ども会議活動⑮	⑬竜南総合防災会議を開こう ⑭文化祭発表 ⑮ESD 子ども会議
12 月	学年検討会⑰⑱⑲ カテゴリー調整⑰	カテゴリー準備⑰	⑰～⑲「中学生にできること」 カテゴリー追究活動 ⑲学区防災訓練参加
1 月	全校提案⑳	フェスタ準備⑳	⑰～⑲「中学生にできること」 カテゴリー追究活動 ⑳学習のまとめ 「竜南防災教育モデル」
2 月	全校提案㉑	フェスタ準備㉑	㉑防災フェスタ

※①などの丸付き数字はプログラム番号を指す

3. 実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号： ⑤】※3

タイトル	防災施設見学
実施月日（曜日）	6月5日（木）
実施場所	そなえりあ 本所防災館 品川防災館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 学年教師全員 所属・役職等：
所要時間または「コマ数×単位時間」	4コマ×50分程度
プログラムのカテゴリ、形式※4	9 校外学習・移動教室
活動目的※5	5 災害を疑似体験
達成目標	災害発生に対する切実感を抱き、対策の必要性を実感することができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 修学旅行計画策定 ② 関係各所と調整 ③ 修学旅行の実施 ④ 体験報告の記入
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・関係各所係
参加人数	207人
経費の総額・内訳概要	200,000円程度（バスチャーター費用）
成果と課題	【成果】 防災関連施設で疑似体験したことで、災害に対する切実感を抱くことができた。 【課題】 修学旅行の時間を活用することで、思い出づくりの時間が減る。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑥】※3

タイトル	考えよう災害発生！
実施月日（曜日）	7月4日（金）
実施場所	各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 森田 淳一 所属・役職等： 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	6 防災に対する知識を深める
達成目標	災害の実際や、心の変容を学ぶことで、災害への備えの重要性を改めて感じることができる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 資料準備 ② 災害時の「ない」を考える 日常生活モノ情報 のそれぞれが「ない」 ③ 東日本大震災の実際を読み取る ④ 感想を記入する
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・未来をつくるBOOK（ESD-J提供） ・授業プリント
参加人数	207名
経費の総額・内訳概要	0円
成果と課題	【成果】 東日本大震災の現実を、自分たちと同年代が書いた感想文から読み取ることで、災害への切実感を醸成することができた。 【課題】 なし
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑧⑭】※3

タイトル	東北復興支援訪問
実施月日（曜日）	8月26日（火）～28日（木）
実施場所	宮城県大河原町・亶理町
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 講師 氏 名： 森田淳一 金ヶ瀬中 亶理町職員 所属・役職等： 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	60時間
プログラムのカテゴリ、形式※4	1 イベント・行事
活動目的※5	3 災害に強い地域を作る
達成目標	ボランティア活動等に参加することで、「主体的に動くことができる」生徒を育成する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 参加者募集（3倍強の応募者） ② 意識醸成（交流グッズ作成） ③ 津波被災農地復興支援ボランティア ④ 亶理町立荒浜中学校訪問 ⑤ 大河原町立金ヶ瀬中学校訪問 ⑥ 沿岸部視察 ⑦ 文化祭にて紹介
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・関係各所との折衝
参加人数	・40人
経費の総額・内訳概要	800,000円程度（交通費・宿泊費）
成果と課題	【成果】 ベルマーク義援を行うことができ、心を届けることができた。 防災共同授業を行い、東日本大震災の実際の声を聞くことができた。 つながりを紡ぐことができた。 【課題】 費用が掛かる。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑪⑫】※3

タイトル	防災マップ作り (D I G)
実施月日 (曜日)	9月19日 (金) 等
実施場所	竜南中学区
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 各担任 所属・役職等： 教諭
所要時間または 「コマ数×単位時間」	5コマ×50分
プログラムの カテゴリ、形式※4	9 校外学習・移動教室
活動目的※5	4 災害を想定した訓練
達成目標	災害に強い街にするために、現状を把握することができる
実践方法・進め方 (箇条書き またはフロー)	① 調査地域区分 ② 実地調査 ③ 聞き取り調査 ④ 調査結果集約 ⑤ 分析・検討 ⑥ 文化祭にて紹介
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・学区地形図 (4×3 マップ) ・マッピングシール ・カメラ ・印画紙
参加人数	207人
経費の総額・内訳概要	10,000円程度
成果と課題	【成果】 実際に自分の足で町を歩き、調査をしたことで、災害発生時にどのような状況になるのかシミュレーションを行うことができた。 【課題】 なし
成果物	防災マップ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。(複数選択可)

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑬】※3

タイトル	竜南総合防災会議を開こう
実施月日（曜日）	11月18日（火）～21日（金）
実施場所	各教室・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 担当者 氏 名： 森田淳一 所属・役職等： 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	10コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	5 教科学習
活動目的※5	9 災害対応能力の育成
達成目標	公助の役割を学び、共助・自助の必要性を実感する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 関係各所と調整 ② 課題意識醸成授業（災害発生時に、竜南学区はどのようになってしまうのか） ③ 追究活動（水道・電気・ガス・道路・避難所・消防のそれぞれが、災害発生時にどのようになるのか聞き取り調査・資料追究） ④ 話し合い活動（竜南総合防災会議）
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・岡崎市水道局 中部電力 東邦ガス 岡崎市道路維持管理課 岡崎市消防署 岡崎市市長公室防災危機管理課 ・各種資料
参加人数	207人
経費の総額・内訳概要	10,000円程度（講師謝礼）
成果と課題	【成果】 関係各所から、公助のために努力していることを聞きとることができた。その中で、「絶対的に手が足りなくなる」ことを聞き取り、自助・共助の必要性を実感した。 【課題】 なし
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑩】※3

タイトル	りゅうぼうの住処（避難所設営体験）
実施月日（曜日）	12月12日（金）から
実施場所	教室・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名： 徳 尚和 所属・役職等： 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	8コマ×50分 + 1コマ（発表）
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	5 災害を疑似体験
達成目標	避難所生活で自治組織の持つ役割を考え、モデルプランを提案する。
実践方法・進め方（簡条書きまたはフロー）	① 学校にある避難所グッズを確認する。 ② 避難所での自治組織の役割を考え、自分たちでモデルプランを作る。 ③ 避難所HUGを使い、実際に自分たちが考えたモデルプランでよいか考える。 ④ プランを見直す。 ⑤ 発表用資料まとめ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・自治組織の役割ごとに班を分けて、内容を考える。 ・避難所HUGセット ・段ボールや衝立など
参加人数	25人
経費の総額・内訳概要	6,700円（避難所HUGセット）
成果と課題	【成果】 各班ごとに、自治組織の中での役割を自覚し、プランを立てている。 【課題】 他の班と意見を交流させ、モデルプランを精査していく必要あり。
成果物	手作り簡易トイレ・モデルプラン

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑰】※3

タイトル	りゅうぼうハート（独居老人見守り）
実施月日（曜日）	12月12日（金）
実施場所	竜南中学区
担当者または講師	担当者・講師等の区分：教諭 氏名：河合和広 所属・役職等：学年主任
所要時間または「コマ数×単位時間」	2コマ×50分＝100分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	防災のために地域を見守り、「共助」の視点を学ぶ
達成目標	地域の高齢者と交流を深め、防災につなげる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①高齢者調査（社協との協力） ②事前アポイントメント ③高齢者（独居老人）のお宅訪問Ⅰ ④訪問Ⅱ安否手ぬぐい配付 ⑤防災マップ作成
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・学区社会福祉協議会委員さん ・手ぬぐい、カメラ
参加人数	24名（生徒数）
経費の総額・内訳概要	10,000円（手ぬぐい作成料）
成果と課題	【成果】 ・子どもたちが地域に出て、協力し合う関係を構築することができた。 ・高齢者の方が災害発生時にどんなことが困る可能性があるのか聞き取り調査を行うことができた。 【課題】 ・訪問できた独居老人の家庭数を拡大していくことが今後の課題である。 ・来年度はぜひ年賀状等の手書きのはがきなどでの交流を試みたい。
成果物	記録写真



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑩ 】 ※3

タイトル	りゅうぼうの救命（救命講習・修了証取得）
実施月日（曜日）	11月28日（金）・1月23日（金）
実施場所	学校内パソコン室（広い部屋）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当 3年担当 講師 岡崎消防署 氏 名： 担当 佐口 講師 大山様 所属・役職等： 担当 教諭 講師 消防士
所要時間または「コマ数×単位時間」	3時間×50分×2回
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	7 技術を身に付ける
達成目標	救急救命の方法を学び、地域の救命に役立てることができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・消防署にアポイントメント ・会場確保（訓練装置が並べられるくらいのスペース必要） ・講習開始（AED・人工呼吸・心臓マッサージ・止血法） ・多様なシミュレーション ・修了証交付
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・岡崎消防署 消防士 ・訓練用品（消防署よりレンタル） ・DVDプレーヤー ・レサシアン ・AED
参加人数	24人（12人×2日間）
経費の総額・内訳概要	3,000円（講師謝礼）
成果と課題	<p>【成果】 心肺蘇生法や止血法についての知識が深まり、そのような場面に出会ったときにどのように対処したらよいか自分にできることとその技能を身に付けることができた。</p> <p>【課題】 一度に受講できる人数に制限があり、時間と調整に労力がかかること。</p>
成果物	個人に交付された修了証



※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： 19】※3

タイトル	りゅうぼう食（非常食調理）
実施月日（曜日）	12月12日（金）等数度
実施場所	教室、調理室、屋外
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：小島 了 所属・役職等：教諭 講師 多様 すいか隊
所要時間または「コマ数×単位時間」	2時間程度
プログラムのカテゴリ、形式※4	7 技術を身に付ける
活動目的※5	災害時にちょっとした工夫でおいしく食べられる料理を考える
達成目標	栄養素やカロリー、メンタルの回復を考え、災害時に調理可能な料理を提供することができるようにすること
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 災害時に求められる食事の役割、使える材料や調理器具、方法について各自で調べる。 ② 発表活動を通して共有化し、非常食調理の視点を明らかにする。 ③ 各自で実際に調理してみる。 ④ 試食を行い、実際に調理可能かどうか検討する。 ⑤ 岡崎市のすいか隊のアイデアを聞く。 ⑥ 防災フェスタで広める。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・人材：男女共同参画社会をめざす「すいか隊」 ・料理の材料 
参加人数	24人
経費の総額・内訳概要	10000円程度（家庭に買い置きしてあったもの）
成果と課題	<p>【成果】 非常食にひと手間加えることで、災害時に心を温める料理を提供することができることを理解できた。 じゃがいも等の常備された食材の活用法を学ぶことができた。</p> <p>【課題】 災害時の食料調達方法や利用する器具の確保法までおさえることができなかった。</p>
成果物	調理レシピ

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ⑳】※3

タイトル	りゅうぼうごよみ（防災カレンダー）
実施月日（曜日）	12月12日（金）から随時
実施場所	4 総合的な学習の時間
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏 名： 稲垣悦男 所属・役職等： 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	5コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	2 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	防災への意欲を高めるようなカレンダーを作る。 作成過程を通して、作成者の防災意識を高めることができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	どんなページを作成するか検討会議 ページ割り付け 日めくりカレンダーを作成する
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	インターネット 書籍資料 ペン 画用紙
参加人数	30人程度
経費の総額・内訳概要	5,000円（画用紙・ペン）
成果と課題	【成果】 制作活動を通して、より防災への意欲を高めることができた。 【課題】 全員で一つのカレンダーしか作成することができず、配付はできなかった。
成果物	りゅうぼうカレンダー

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ②】※3

タイトル	りゅうぼうの知恵
実施月日（曜日）	12月12日（金）等
実施場所	教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分： 担当者 氏 名： 大西昌子 所属・役職等： 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	9コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	2 防災に役立つ資料・材料づくり
達成目標	災害時に身近にあるものを使って役立つものを作ることが可能であることを紹介できる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	①災害時にあると便利な物、なくては困るものを考える。 グループを三つに分けて、紹介方法を相談し、発表の準備を進めていく。 ②手にはいる材料で作れるものを調べる。 ③集めた情報を整理し、紹介したいものを選択する。 ④実際に使えるか、作って検証をする。 ⑤防災フェスタにて紹介をする。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	展示・使い方紹介・作り方を実演
参加人数	25人
経費の総額・内訳概要	
成果と課題	【成果】 どこの家庭でも手に入るものを使って、災害時に役立つものが作り出せることが分かり、その情報交換ができた。 【課題】 当日の発表にむけて、いかに工夫して分かりやすく伝えていけるか。
成果物	

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ②②】※3

タイトル	りゅうぼう袋（非常持ち出し袋の中身検討）
実施月日（曜日）	12月12日（金）以降随時
実施場所	教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名：光田 健 所属・役職等：教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	8コマ×50分
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	1 遊び・楽しみながらの防災
達成目標	大切なもの、いのちを守るものを検討・準備することができる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	<ul style="list-style-type: none"> ・非常時に必要となるであろう物品を考える。 ・その中から厳選し、持ち出し袋に入るもの考える。 ・第二次持ち出し袋も考える。 ・各家庭にあるものを持ち寄って、自分たちの考えた非常持ち出し袋を作る。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	<ul style="list-style-type: none"> ・持ち出し袋の中身 ・資料
参加人数	25人
経費の総額・内訳概要	5,000円程度（非常持ち出し袋の中身）
成果と課題	<p>【成果】 東北訪問に参加した生徒から、実際に必要と考えられるものを聞きながら活動したことで、思いを共有することができた。</p> <p>【課題】 一般家庭はまだ非常持ち出し袋の準備率が低いことが課題である。</p>
成果物	非常持ち出し袋（各家庭）

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号： ②③】※3

タイトル	りゅうぼうの住処（避難所設営体験）
実施月日（曜日）	12月12日（金）から
実施場所	教室・体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏名： 徳 尚和 所属・役職等： 教諭
所要時間または「コマ数×単位時間」	8コマ×50分 + 1コマ（発表）
プログラムのカテゴリ、形式※4	4 総合的な学習の時間
活動目的※5	5 災害を疑似体験
達成目標	避難所生活で自治組織の持つ役割を考え、モデルプランを提案する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	① 学校にある避難所グッズを確認する。 ② 避難所での自治組織の役割を考え、自分たちでモデルプランを作る。 ③ 避難所HUGを使い、実際に自分たちが考えたモデルプランでよいか考える。 ④ プランを見直す。 ⑤ 発表用資料まとめ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・自治組織の役割ごとに班を分けて、内容を考える。 ・避難所HUGセット ・段ボールや衝立など
参加人数	25人
経費の総額・内訳概要	6,700円（避難所HUGセット）
成果と課題	【成果】 各班ごとに、自治組織の中での役割を自覚し、プランを立てている。 【課題】 他の班と意見を交流させ、モデルプランを精査していく必要あり。
成果物	手作り簡易トイレ・モデルプラン

※3 本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。

※4 別紙「記入上の留意点」の3.項目から選択し、記入してください。（複数選択可）

※5 別紙「記入上の留意点」の4.項目から1つ選択し、記入してください。

4. 苦勞した点・工夫した点

<p>プランの立案 と調整で 苦勞した点 工夫した点</p>	<p>プランの立案については、それほど大きく苦勞することはなかった。「着眼大局・着手小局」を胸に、「持続可能な地域社会の実現」のために何ができるのかを大局とし、その実現のための活動を「子どもたちの意識」が「連続」し、その過程を通して学びが「深まり」、学んだことを地域で生かしたいと「広める」流れを構築していった。(これを校内では「課題意識の連続性」と呼んでいる。) また、それだけでなく、自由に意見を言う場を何度か設けて、(学年会) 学年教師全体が、どのように防災教育に取り組んでいきたいかをコツコツ話し合っていた。</p> <p>このように、小局を繰り返していくことで、指導者にも創意工夫が見られるようになっていき、その思いが子どもたちにも伝わっていった。 あえて苦勞した部分を挙げるとするならば、学校のカリキュラムの中でどのように実践を行っていくかという「時間的」な部分である。限られた時間を最大限効率的に活用することができるように苦心をした。また、先生方にも、遅くまで残って活動に取り組んでいただいているので、できるだけ省力化を図ることができるようにすることに苦勞をした。</p>
<p>準備活動で 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・準備活動で苦勞したのは、以下の点がある。 ① 地域との準備・・・調整会議に参加し、学校の思いを具現化するために地域に依頼をしたり、地域の思いを具現化するために学校が協力したりする時間の確保が苦勞をした。また、初めての活動も多く(代表的なものは独居老人宅訪問)、理解を得るのに苦勞する部分もあった。 ② 離れた地域との準備・・・東北地方訪問の際に、何をどのように準備すべきかや、共同授業の指導案作成をどのように行うかなど、綿密な準備が必要であった。 <ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点は下記の通りである。 ① ベルマーク収集・・・地域から集めたベルマークと、学区内の学校が協働して集めたベルマークを集約・分類整理し、まとまった点数になったところで復興支援協力をさせてもらっている荒浜中学校にお渡しすることができた。 ② 「広げる」部分・・・今まで行っている行事の準備に合わせて防災活動の準備も行うことで、省力化を図ることができるようにした。
<p>実践に 当たって 苦勞した点 工夫した点</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・苦勞した点 ① 大人数・・・すべての活動が学年全体約200人で動くことになり、想定通り進まないということもあった。 ② 新機軸を打ち出す・・・今までの先輩方が培ってきた実践を、自分たちの色をどのように出して行うかに苦心した。 <ul style="list-style-type: none"> ・工夫した点 ① 教員の色を出す・・・学年の教員9人が、普段はそれぞれの教科を受け持っている。その特性や、教師自身の興味関心を生かし、8つの防災カテゴリーを形成して授業を行った。このことで、子どもたちの多様な課題意識にも対応することができるようになり、「意識の連続性」を守ることができた。

5. 他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・ 同窓会組織	あ：大河原町立金ヶ瀬中学校 い：亘理町立荒浜中学校 う：各市教育委員会 え：E S D子ども会議実行委員会	あ：防災共同授業を行い、東日本大震災時の経験を教えていただき、絆を深める。過去5年にわたる関係を構築。 い：津波被害のすさまじさをお聞きし、新校舎の防災対策を見学させていただく。(義援ベルマーク寄贈) う：各種イベントへの参加調整・資料提供 え：子ども会議・ユネスコ世界会議への参加調整・実施主体
保護者・ P T Aの組織	お：竜南中学校 P T A	お：炊き出しの実施、東北訪問への支援
地域組織	か：上地学区総代会	か：地域との協働学習の連絡調整
国・地方公共団体・ 公共施設	き：文部科学省国際統括官 く：岡崎市役所 け：岡崎市南部地域交流施設	き：ユネスコスクールパンフレットへの竜南中実践掲載、E S D世界会議での日本展示パネル紹介 く：市長公室防災危機管理課から防災講話・各種イベントへの支援グッズ提供、総合防災会議へむけた聞き取り調査 岡崎市派遣の「亘理町支援職員」との交流の場の提供・調整 消防署から講師派遣 け：交流の場の提供
企業・ 産業関連の組合等	こ：岡崎ロータリークラブ さ：アクサユネスコ 減災教育プログラム し：マイファーム亘理	こ：環境教育賞支援 さ：気仙沼市研修の実施と各種支援の提供・防災教育実施校との交流関係構築支援 し：津波被災農地復興支援ボランティアの実施場所提供
ボランティア団体・ N P O法人・N G O 等	す：N P O法人「E S D-J」 せ：N P O法人 「岡崎まち育てセンターりた」 そ：上地学区社協委員会 た：すいか隊	す：未来をつくるBOOKの提供と授業案の共同作成 せ：地域コミュニティー誌への紹介、防災イベントでの出展場所提供 そ：独居老人宅訪問支援 た：防災食指導・支援
職業、職能団体・ 学術組織、学会等	ち：岡崎社会科授業研究サークル つ：ボランティアスピリット賞	た：竜南総合防災訓練の企画立案・検討・実施支援また、プラン全体への指導・助言 ち：活動成果を称賛する機関

6. 成果と課題（実践したプラン全般について）

<p>成果として 得たこと</p>	<p>① 生徒の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 社会の実態を学ぶことで、自分の立場を明確にすることができ、「持続可能な地域社会の実現」に向けて、「自分ができること」を考えて行動することができるようになった。 <p>② 実践研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「切実感」を高めることが「課題意識の高揚」には不可欠であり、「課題意識の高揚」を持続させるには「単元を貫く課題」の設定が不可欠であることが分かった。 ・ 「人」「コト」「モノ」に出会うことで、自分の言葉に責任感と自信が湧き、この思いと、「地域を大切に作る心」が行動化へと大きく前進させるものになることが分かった。 ・ クロスカリキュラムを導入し、多様な教科・領域で単元を貫く課題を学ぶことで、多面的・多角的な思考を得る一助となることが分かった。また、時間数を有効に活用することにもつながった。 ・ 「竜南防災教育モデル」の策定により、教員に異動等があったとしても、学びの小単元を踏んでいくことで、誰もが同じ教育効果をめざすことができるようになった。 										
<p>全体の反省・ 感想・課題</p>	<p>生徒の感想を見ると、この活動によって生徒の思いがどのように変容していったのかがよく分かるので、ここに掲載したい。</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="427 936 730 1048"> <p>① 防災講話において、市役所の方から東日本大震災の実態を学ぶ</p> </td> <td data-bbox="738 936 1378 1048"> <p>こんなにも大きくて、長い地震が来たら、パニックになってしまうと思った。見せていただいた映像の中で、お年寄りがしゃがんでいる所を、若い人が背中をさすっていたから、自分もそんな人になりたいと思った。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="427 1059 730 1171"> <p>② 修学旅行において、防災関連施設の方から災害の大きさを学ぶ</p> </td> <td data-bbox="738 1059 1378 1171"> <p>3つの防災関連施設を訪問した。どの施設も体験的に学ぶことができる施設であり、「災害発生時」を真剣に考えて活動することができた様子であった。（実態を紹介。感想ではない）</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="427 1182 730 1294"> <p>③ 東北復興支援訪問において、それぞれの立場の方から復興の実際を学ぶ</p> </td> <td data-bbox="738 1182 1378 1406"> <p>農家の方の苦労と努力はすごいものでした。周りの方々と協力して、がれきで埋まってしまった畑からがれきを取り除き栽培できる土に戻しました。今年で3年目のトマト栽培ですが、まだまだ改善させるところがあるそうで、懸命な復興をなさっていました。農家の方がおっしゃっていた「また何年後かには必ずイチゴを栽培できるようにする」という言葉から、輝きを感じました。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="427 1417 730 1529"> <p>④ 竜南総合防災会議にむけて、様々な立場の方から災害発生時の努力の姿勢を学ぶ</p> </td> <td data-bbox="738 1417 1378 1552"> <p>防災倉庫の中にあるものも少なく、多くの人が避難所に行くとなると全然足りないから、自分たちで持っていったり、なるべく家にいたりした方がいいと思った。もっと自分たちで用意をしないといけないことを知ってもらわなければならないと思う。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="427 1563 730 1675"> <p>⑤ 竜南総合防災会議で意見共有を図った後</p> </td> <td data-bbox="738 1563 1378 1787"> <p>この話し合いで多くの意見が出たけれど、みんなの意見を聞いたら、学区は安全なのかもっとわからなくなってしまった。みんなそれぞれの立場の人たちががんばってくれている。けれど、やっぱりできないこともあって、いい所もあれば、不安なところもある。でも、どの話を聞いても、自分の身は自分で守ることがあった。すべての人を助けることはできないから、自分でどうにかしないといけないということを改めて感じた。</p> </td> </tr> </table> <p>このように、生徒は学びを通して切実感を抱きながら、「持続可能な社会の実現のために「自分がすべきこと」を見つけ、行動をすることができるようになった。この輪がさらに広がっていくことが、今後の課題である。</p>	<p>① 防災講話において、市役所の方から東日本大震災の実態を学ぶ</p>	<p>こんなにも大きくて、長い地震が来たら、パニックになってしまうと思った。見せていただいた映像の中で、お年寄りがしゃがんでいる所を、若い人が背中をさすっていたから、自分もそんな人になりたいと思った。</p>	<p>② 修学旅行において、防災関連施設の方から災害の大きさを学ぶ</p>	<p>3つの防災関連施設を訪問した。どの施設も体験的に学ぶことができる施設であり、「災害発生時」を真剣に考えて活動することができた様子であった。（実態を紹介。感想ではない）</p>	<p>③ 東北復興支援訪問において、それぞれの立場の方から復興の実際を学ぶ</p>	<p>農家の方の苦労と努力はすごいものでした。周りの方々と協力して、がれきで埋まってしまった畑からがれきを取り除き栽培できる土に戻しました。今年で3年目のトマト栽培ですが、まだまだ改善させるところがあるそうで、懸命な復興をなさっていました。農家の方がおっしゃっていた「また何年後かには必ずイチゴを栽培できるようにする」という言葉から、輝きを感じました。</p>	<p>④ 竜南総合防災会議にむけて、様々な立場の方から災害発生時の努力の姿勢を学ぶ</p>	<p>防災倉庫の中にあるものも少なく、多くの人が避難所に行くとなると全然足りないから、自分たちで持っていったり、なるべく家にいたりした方がいいと思った。もっと自分たちで用意をしないといけないことを知ってもらわなければならないと思う。</p>	<p>⑤ 竜南総合防災会議で意見共有を図った後</p>	<p>この話し合いで多くの意見が出たけれど、みんなの意見を聞いたら、学区は安全なのかもっとわからなくなってしまった。みんなそれぞれの立場の人たちががんばってくれている。けれど、やっぱりできないこともあって、いい所もあれば、不安なところもある。でも、どの話を聞いても、自分の身は自分で守ることがあった。すべての人を助けることはできないから、自分でどうにかしないといけないということを改めて感じた。</p>
<p>① 防災講話において、市役所の方から東日本大震災の実態を学ぶ</p>	<p>こんなにも大きくて、長い地震が来たら、パニックになってしまうと思った。見せていただいた映像の中で、お年寄りがしゃがんでいる所を、若い人が背中をさすっていたから、自分もそんな人になりたいと思った。</p>										
<p>② 修学旅行において、防災関連施設の方から災害の大きさを学ぶ</p>	<p>3つの防災関連施設を訪問した。どの施設も体験的に学ぶことができる施設であり、「災害発生時」を真剣に考えて活動することができた様子であった。（実態を紹介。感想ではない）</p>										
<p>③ 東北復興支援訪問において、それぞれの立場の方から復興の実際を学ぶ</p>	<p>農家の方の苦労と努力はすごいものでした。周りの方々と協力して、がれきで埋まってしまった畑からがれきを取り除き栽培できる土に戻しました。今年で3年目のトマト栽培ですが、まだまだ改善させるところがあるそうで、懸命な復興をなさっていました。農家の方がおっしゃっていた「また何年後かには必ずイチゴを栽培できるようにする」という言葉から、輝きを感じました。</p>										
<p>④ 竜南総合防災会議にむけて、様々な立場の方から災害発生時の努力の姿勢を学ぶ</p>	<p>防災倉庫の中にあるものも少なく、多くの人が避難所に行くとなると全然足りないから、自分たちで持っていったり、なるべく家にいたりした方がいいと思った。もっと自分たちで用意をしないといけないことを知ってもらわなければならないと思う。</p>										
<p>⑤ 竜南総合防災会議で意見共有を図った後</p>	<p>この話し合いで多くの意見が出たけれど、みんなの意見を聞いたら、学区は安全なのかもっとわからなくなってしまった。みんなそれぞれの立場の人たちががんばってくれている。けれど、やっぱりできないこともあって、いい所もあれば、不安なところもある。でも、どの話を聞いても、自分の身は自分で守ることがあった。すべての人を助けることはできないから、自分でどうにかしないといけないということを改めて感じた。</p>										
<p>今後の 継続予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第一歩を踏み出した地域交流の輪を広げていきたい。 ・ 岡崎の学びを共にする子どもたちとのつながりを深めたい。 ・ 持続可能な地域社会の実現に貢献できる生徒をこれからも一人でも多く増やしていきたい。 										

7. 自由記述欄 ※6

※6 自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守をお願いします。

本研究にあたって、研究のまとめを作成した。ここでは、その一部分を紹介することで、自由記述としたい。

1 実践のとらえ

阪神淡路大震災・東日本大震災と、日本は地域の持続可能性を揺るがす大きな災害（特に地震）を経験してきた。そして、私たちの住む**愛知県岡崎市もその災害が発生する可能性は高く**、東海・東南海・南海トラフ地震が発生した場合には、同じ状況におかれる危険性が高い。このような社会情勢にもかかわらず、中学生の中で「災害への危機対応意識」が高いとは言えない。その理由として、次の2点があると考えた。一つ目は、「**切実感の欠如**」であり、二つ目が「**対応方法の学習不足**」である。これは、地域住民にも同じことがいえ、防災訓練等には参加するものの、実際に家族防災会議を開いているかというとその頻度は低い。そこで、本実践では、上記2点を解決するため、防災学習を切り口にする事で、「**地域力**」の向上をめざしたいと考えた。地域力を向上させていくことが、持続可能な地域社会の実現にもつながり、生徒自身が「**地域の構成員**」として、これから先も主体的に社会に関わろうという意識を高めることができるのではないかと考えたからである。①の切実感を子どもたちに醸成していくことで、思いを家庭・地域へと広げることができ、「**地域が一体化した防災**」へと高めていくことができるのではないかと考えた。そして、②の「防災学習の充実」を図っていくことが、命を守ることへと直結し、生きる力そのものになるのではないかと考えた。

この中で、忘れてはならない視点が三つある。それは「**自助**」「**共助**」「**公助**」である。この三つを明らかにしながら学びを進めていくことで、「**地域をまもるために**」「**誰(どの機関)が**」「**何をしてくれるのか**」そして、「**私たちは何をすべきなのか**」を考えることにつながるからである。

防災学習の充実を通して、学校・家庭・地域が連携した学びへと発展させ、子どもたちが、社会の果たす役割を認識し、社会で果たす役割を考えることができる人物へと成長してくれることを願う。

2 防災教育の目標提案

- ① いのちを守る防災学習に関心を持ち、実社会を学ぶことで、切実感を抱きながら地域勒工場の実現をめざして行動することができる。(関心・意欲・態度)
- ② 自助・共助・公助の視点を学ぶことで、地域社会をまもるそれぞれの立場の人々の役割を考え、自分が何をすべきかに思いを巡らせることができる。また、その成果を防災フェスタで適切な方法を用いて発表することができる。(思考・判断・表現)
- ③ 体験・聞き取り・書籍調査等の手段を有効に活用し、自分の防災に対する学びの達成をめざすことができる。(技能)
- ④ 地域力の向上の重要性や防災学習の必要性を学び、私たちができることを理解することができる。(知識・理解)

(自由記述： 1 / 3)

◎金ヶ瀬中学校とともに出した「防災絆宣言」

防災共同宣言 金ヶ瀬・竜南防災絆宣言

私たちはこれからも絆を大切にします

- 一 私たちは、文化祭等での絆を大切にします。
- 一 私たちはそれぞれの地域での絆を大切にします。
- 一 私たちは防災学習を深め、災害発生時に命と絆を大切にする行動をとります。

平成 26 年 8 月 28 日

大河原町立金ヶ瀬中学校

岡崎市立竜南中学校

4 本研究の成果

- ① 生徒の姿 ・ 社会の実態を学ぶことで、自分の立場を明確にすることができ、「持続可能な地域社会の実現」に向けて、「自分ができること」を考えて行動することができるようになった。
- ② 実践研究 ・ 「切実感」を高めることが「課題意識の高揚」には不可欠であり、「課題意識の高揚」を持続させるには「単元を貫く課題」の設定が不可欠であることが分かった。
 - ・ 「人」「コト」「モノ」に出会うことで、自分の言葉に責任感と自信が湧き、この思いと、「地域を大切にする心」が行動化へと大きく前進させるものになることが分かった。
 - ・ クロスカリキュラムを導入し、多様な教科・領域で単元を貫く課題を学ぶことで、多面的・多角的な思考を得る一助となることが分かった。また、時間数を有効に活用することにもつながった。
 - ・ 「竜南防災教育モデル」の策定により、教員に異動等があったとしても、学びの小単元を踏んでいくことで、誰もが同じ教育効果をめざすことができるようになった。

詳しくは、別添の資料を参照していただきたい。

(自由記述: 3/3)